



東京都正札シール印刷協同組合
理事長 田中浩一

あけましておめでとうございます。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、東京都正札シール印刷協同組合に格別なるご支援、ご協力を賜りました事に厚く御礼申し上げます。

また、昨年は全日本シール印刷協同組合連合会「第59回年次大会・東京大会」が、組合員、会友ならびに協賛会員の方々の絶大なるご協力をいただき成功いたしました事を、担当協組として、改めて御礼申し上げます。

平成30年を迎え、シール・ラベル業界も時代と共に進歩し変化を遂げていると認識しております。

最近のプリンターやレーザー・カッターなど、技術の進歩により素晴らしいシール・ラベルが製造されるようになって参りました。

従来ですと、インキの練りから始まり、インキツボの調整、印圧や刃型の調整など、それなりの知識と技術を習得したオペレーターの方々が、よい製品を作ることを可能としてきました。最近のプリンターですと、手を汚しての調整などほとんど無いと思われまじ。機械操作さえ覚えてしまえば、新人のオペレーターの方でも直ぐに製品を作ることが可能であるような気がします。

だいぶ前の話しですが、私どもの会社で平圧式凸版印刷機を用いて、エンビ乳白に2cm角のベタ印刷をしたことがありました。雄型紙を削ってムラ取りをしたり、インキの粘度を調整したりと大変な時間を掛けておりました。たまたま隣においてありました輪転式凸版印刷機に、同じ版とインキを用いて印刷しましたら、「版を貼っただけで刷れた」と思うほどの驚きでした。このような驚きを、次元の高いレベルで与えてくれるのが、これからのプリンターだと期待しております。

人手不足が深刻化してきた昨今ですが、長い時間を掛けて技術を習得させ労力を使わせるよりも、簡易なプリンターで即座に生産に貢献できるほうが新入オペレーターの自信となり、さらには仕事の中から楽しみを見いだせるのではないのでしょうか。新人の方が、早く職場になじみやすくすることが、人手不足解消の一途となれば、我々の業界も飛躍できることでしょう。

これから新しい技術を取り入れて、時代に即した職場環境を整え、生産効率の向上と収益性の確保で、本年を楽しい年としたいものです。

当協組としても、技術の勉強会や経営に関するセミナーを行い、組合員・会友の更なる発展に努めて参る所存であります。

本年が、皆様方におきまして更なる御繁栄とご健勝を謳歌できます年となります事を祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。